

平成 25 年 1 月 4 日

市長年頭訓示

市民ホール大ホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も、それぞれの部署で市民福祉の向上に努められるとともに、東日本大震災の被災地である宮城県塩竈市や新潟・福島豪雨の被災地である新潟県三条市など、被災地の支援活動にも従事いただき、誠にありがとうございました。

さて、昨年は 7 月 20 日に本市の東部地域が 1 時間に 96 ミリもの記録的・局所的な豪雨に見舞われ、床上・床下浸水等の建物被害が 463 棟も発生するなど、大きな被害を受けました。

越前市では、国や県、近隣市町、多くのボランティア等のご支援をいただきながら、迅速な災害復旧に努めるとともに、被災した越前和紙産地の振興や治山・治水対策の着実な実施を図っており、本年も市地域防災計画原子力災害対策編の策定をはじめ、地域防災力の充実強化に引き続き取り組んでまいります。

また、円高やデフレ等に対応するため、本年度の当初予算編成方針の重点項目の一つに「経済・雇用対策の推進」を位置付け、企業立地促進補助金の拡充や円高緊急対策等小規模事業者特別資金制度の創設を行うとともに、年間を通して補正予算を編成するなど、積極的な経済・雇用対策を推進しました。

特に、12月補正予算には、総事業費で7億7千万円余の経済・雇用対策を位置付けたところであり、景気の先行き不透明感が増している中、厳しい地域の経済・雇用情勢に目配りをした対応を図っているところです。

さて、昨年の本市を振り返ってみると、まず「次世代を担う子どもたちの育成」については、本市の全ての子どもたちを虐待や貧困などから守り、一人ひとりの子どもの健やかな成長と自立に向けた支援を市民との協働により行うため、県内で初めて市子ども条例を4月に施行しました。

また、夢を持つことの大切さを小中学生に教える「夢

の教室」の開催や、新たに「コウノトリが舞う里づくり構想」の関連事業の実施を明記した3箇年間の協定を、公益財団法人日本サッカー協会と5月に締結しました。

さらに、昨年夏のかこさとし氏の特別展の成功を踏まえ、子どもたちの想像力や探究心を育むため、同氏の全面的なご協力をいただき、「かこさとし ふるさと絵本館」(仮称)をふるさとギャラリー分館「拓」に、今年の4月に開設する準備を進めています。

次に、「コウノトリが舞う里づくり」については、7月にコウノトリを「市の鳥」に指定するとともに、コウノトリの人工巣塔の除幕式を8月に坂口地区で、10月には白山地区で行いました。

また、10月に開催した「コウノトリが舞う里づくり大作戦」では、コウノトリやトキの野生復帰に取り組む4つの自治体で「自治体かいぎ」を開き、交流促進などを宣言しました。

コウノトリをシンボルに、環境に優しい農業の振興、食育や地産地消の推進にも積極的に取り組み、「地産地消推進の店」として市内の飲食店51店舗を認定するとともに、4月からは全小中学校の給食に地元産の特別栽培米を導入しました。

次に、再生可能エネルギーの利用促進では、太陽光発電設備の一層の普及を図るため、7月に市民団体や関係事業者とともに市太陽光発電推進協議会を設置して検討を深め、市の施設の屋根を20年間貸し出し、太陽光発電パネルを設置して発電する民間事業者を12月に募集したところ、日本海側では初めてとなる5施設の屋根貸しが決定しました。

このほか、フェンシングの中野希望選手が本市出身者としては40年振りに、7月のロンドンオリンピックに出場を果たし、市民挙げて応援を行ったこと、北陸新幹線の金沢・敦賀間の工事実施計画が6月に認可され、8月にJR福井駅で起工式が行われたこと、市の名物であるおろしそば、ボルガライス、中華そばを広くPRするため、10月に「越前三大グルメフェア」が初めて開かれたこと、岐阜県高山市と都市提携の盟約を結んで

30周年を迎え、両市で記念式典を開催したことなど、数多くの取組みを市民との協働により実施しました。

また、「読書のまち宣言」や「健康21計画」「子ども・子育て支援計画」「幼保一体化推進計画」「第2期中心市街地活性化基本計画」「スポーツ推進プラン」など、重要な計画の策定を着実に進め、現在、パブリック・コメントを実施しており、多くの成果を上げることができた1年であったと思います。

さて、新たな年を迎え、今年1年の抱負としては、昨年10月に決定した「平成25年度当初予算編成方針」において、「地域防災力の充実強化」「経済・雇用対策の推進」「次世代を育む施策の推進」など5項目を重点項目と位置付け、メリハリのある予算編成を進めているところです。

特に、「次世代を育む施策の推進」については、「子ども・子育て支援計画」の策定に合わせて、児童福祉の一層の拡充や教育環境の整備促進に積極的に取り組みたいと考えています。

また、まちづくりの面からは、本市の骨格幹線道路である戸谷・片屋線の整備について、吉野瀬川の桜橋から

鳥羽中芦山線までの県の施工区間が今年の春に、鳥羽中芦山線から国道8号までの市の施工区間が夏にはそれぞれ供用開始されるとともに、県の丹南総合公園については、野球場など一部の施設が9月に供用開始される予定となっています。

これを受け、2巡目の福井国体の開催に間に合うよう、スポーツ施設の再配置や武生中央公園の整備について、新年度は計画を策定してまいります。

また、懸案の新庁舎の建設についても、まちづくり懇話会での議論を踏まえ、新年度に方針の取りまとめを行う考えです。

それぞれ大いに議論を深め、越前市の20年後、30年後を睨んだまちづくりの方向性を明確にしていきたいと思えます。

本年も、「夢を育む教育」や「コウノトリが舞う里づくり」の推進をはじめ、長期的な観点から「人づくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある越前市を目指して誠心誠意、市政の推進に努めてまいります。

その際、市民の期待に確実に応えていくには、全職員がコツコツと課題に取り組み、当たり前前のことを当たり前前に実践する風土を庁内に築いていくことが肝要です。

一人ひとりの職員の小さな実践の積み重ねが、結果として大きな成果を生み出し、着実な市政の発展につながっていくからです。

職員の皆さんには、越前市の将来に大きな夢を描き、それぞれの部署でコツコツと職務に精励し、「現地現場主義」の実践を通して市民のニーズを的確に汲み取り、市民の期待に応えて本年も市政の推進にご尽力をいただきますようお願いいたします。

結びに、皆さんが本年も心身ともに健康で、市民福祉の向上のために大いにご活躍されることを祈念して、平成25年の「仕事始め式」の訓示とします。

本年も、よろしく申し上げます。